

令和7年 **7**月の**安らぎ**通信



線状降水帯予測に新手法 水蒸気量や海水温実測

的中率向上狙う 上空から機器投入／海中を自律航行

＊「線状降水帯」主要因の水蒸気量を調べるため、気象庁は航空機や無人探査船による直接観測に乗り出しました。

＊線状降水帯が発生するプロセスには水蒸気量、大気の安定度、各高度の風など複数の要素が関係します。

＊気象庁気象研究所は特に海上の観測に力を入れ、北西太平洋や東シナ海などの海域まで対象エリアを広げます。

＊気象庁は 2022 年、線状降水帯発生を半日前に呼びかける「半日前予測」を導入。

＊2022 年から 2024 年までの 3 年間、呼びかけ後に実際に発生した「的中率」は 3 割、発生を予測できなかった「見逃し率」は 7 割。

(2025 年 6 月 17 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



携帯トイレ 35 回分必要

災害への備え、下水不通で汚水逆流も

＊災害時、トイレが大事なのは、①不衛生による集団感染 ②不便さによる災害関連死 ③ストレスによる治安の悪化。

＊住宅避難の場合、携帯トイレを使うときは

①まずぬらさないために便座を上げて便器に 45 ㍓程度のポリ袋を取り付けます。

②便座を下ろして袋式の携帯トイレを取り付け、大小便を固める吸収シートや凝固剤を入れます。

③袋の中に排泄した後は袋の空気を抜いて口をしっかりと結び、フタ付きの容器で保管します。

＊①～③を 1 回ごとにします。職場のトイレでも同様。

＊トイレに行く回数は 1 日 5～10 回。

＊1 人最低 5 回として 1 週間、35 回分は用意します。

(2025 年 6 月 21 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)